

平成27年度 獣医公衆衛生学会（北海道）

地区学会長：門平 睦代（帯広畜産大学）

1日目（9月11日）会場（B1号館101）

9：40～10：20

座長：小森 博司（根室保健所）

- 公-1 と畜検査員資質向上のための取り組みについて～所内向け資料集の作成～ 111
 ○根本卓弥¹⁾ 吉岡えりな²⁾ 遠藤敏郎¹⁾ (¹⁾帯広食肉衛検 ²⁾帯広保健所)
- 公-2 と畜場で発見された豚丹毒菌 *Erysipelothrix rhusiopathiae* に関する分子疫学調査 111
 ○大野祐太¹⁾ 池田徹也²⁾ 清水俊一²⁾ 横山光恵³⁾ 古崎洋司⁴⁾
 (¹⁾早来食肉衛検 ²⁾道衛研 ³⁾名寄保健所 ⁴⁾渡島保健所)
- 公-3 乳廃牛のと畜検査における第四胃変位手術の所見 112
 ○平下俊治¹⁾ 上林亜紀子²⁾ 瀬戸萌未²⁾ 一戸佳奈²⁾ 高橋 守³⁾
 (¹⁾日高食肉衛検 ²⁾八雲食肉衛検 ³⁾岩見沢食肉衛検)
- 公-4 牛にみられた紡錘形細胞肉腫の1例 112
 ○秋山貴洋 館江弘明 松本斉子 通山佳之 (帯広食肉衛検)

10：30～11：10

座長：臼井 優（酪農大）

- 公-5 *Streptococcus suis* による豚の疣贅性心内膜炎多発例と分離株の解析 113
 ○小林亜由美 和田好洋 (石狩家保)
- 公-6 と畜検査で見られた人獣共通感染症の効果的な情報提供のための時系列分析の利用 113
 ○足立泰基¹⁾ 蒔田浩平²⁾ (¹⁾釧路保健所 ²⁾酪農大衛生・環境学)
- 公-7 犬猫業務に関する住民の理解度調査と理解向上への取り組み 114
 ○藤川しのぶ¹⁾ 懸田憲二¹⁾ 保坂直美²⁾ 成澤昭徳³⁾ 渡邊昌彦⁴⁾ 中井康介⁵⁾ 横山 恵⁶⁾
 (¹⁾江別保健所 ²⁾千歳保健所 ³⁾岩見沢保健所 ⁴⁾滝川保健所 ⁵⁾深川保健所 ⁶⁾岩見沢食肉衛検)
- 公-8 MALDI-TOF 質量分析システムによるイヌ口腔内からの *Bergeyella zoohelcum* の検出 114
 ○原谷那美¹⁾ 内田玲麻¹⁾ 郡山尚紀²⁾ 鈴木章夫³⁾ 堀内基広³⁾ 村松康和¹⁾
 (¹⁾酪農大衛生・環境学 ²⁾酪農大獣医保健看護学 ³⁾北大獣医衛生学)

11：20～12：00

座長：松村 康和（酪農大）

- 公-9 犬由来大腸菌における16S-RMTase 遺伝子の保有状況 115
 ○昆 道葉¹⁾ 臼井 優¹⁾ 田村 豊¹⁾ (酪農大衛生・環境学)
- 公-10 と畜場搬入豚より分離されたメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の分子疫学的特徴 115
 ○佐藤友美¹⁾ 臼井 優¹⁾ 本谷 匠²⁾ 杉山照美³⁾ 田村 豊¹⁾
 (¹⁾酪農大衛生・環境学 ²⁾茨城県衛研 ³⁾茨城県北食肉衛検)
- 公-11 農場間における薬剤耐性大腸菌伝播の実態調査 116
 ○若尾英之¹⁾ 猪子理絵²⁾ 臼井 優¹⁾ 田村 豊¹⁾ (¹⁾酪農大衛生・環境学 ²⁾帯広食肉衛検)
- 公-12 プロイラーから分離したサルモネラの薬剤感受性および分子疫学的解析 116
 ○柳沢梨沙¹⁾ 大野祐太¹⁾ 横山光恵²⁾ 古崎洋司³⁾ 佐藤友美⁴⁾ 池田徹也⁵⁾ 清水俊一⁵⁾
 (¹⁾早来食肉衛検 ²⁾名寄保健所 ³⁾渡島保健所 ⁴⁾酪農大衛生・環境学 ⁵⁾道衛研)

13：00～13：30

座長：古崎 洋司（渡島保健所）

- 公-13 外国人従事者に対する衛生講習会の効果について 117
 ○伊藤直人¹⁾ 奥野尚志¹⁾ 深瀧弘幸²⁾ 遠藤敏郎¹⁾ (¹⁾帯広食肉衛検 ²⁾東藻琴食肉衛検)

- 公-14 脂肪注入加工した牛ステーキ肉の実態調査および加熱方法の検証 117
 ○水野文子¹⁾ 佐藤恵子¹⁾ 松本勝則¹⁾ 前野俊幸¹⁾ 藤川しのぶ¹⁾ 田島美智代¹⁾ 青木力也¹⁾
 池田徹也²⁾ (¹⁾江別保健所 ²⁾道衛研)
- 公-15 オホーツク管内で食肉処理されたエゾシカの衛生実態調査 118
 ○黒澤拓也¹⁾ 深江征雄¹⁾ 大野博士¹⁾ 塚本絢己²⁾ 村松康和²⁾
 (¹⁾東藻琴食肉衛検 ²⁾酪農大衛生・環境学)

13:30~14:00

座長：黒澤 信道 (NOSAI 道東)

- 公-16 2015年における酪農学園大学野生動物医学センター WAMC の活動報告 118
 ○浅川満彦¹⁾ 佐野忠士²⁾ 鈴木一由³⁾ 遠藤大二⁴⁾
 (¹⁾酪農大感染・病理学 ²⁾酪農大獣医保健看護学 ³⁾酪農大生産動物医療学 ⁴⁾酪農大生体機能学)
- 公-17 アミノクロウサギの消化管寄生蠕虫相調査 119
 ○松本亮祐¹⁾ 吉田 敦¹⁾ 福本真一郎¹⁾ 伊藤 結²⁾ 鑑 雅哉²⁾ 木元侑菜²⁾ 服部正策³⁾
 倉石 武³⁾
 (¹⁾酪農大感染・病理学 ²⁾環境省奄美野生生物保護センター ³⁾東大奄美病害動物研究施設)
- 公-18 カンガルー病 (Lumpy Jaw Disease) を罹患した飼育下オオカンガルーの血漿エンドトキシン活性値 ... 119
 ○佐々木春香¹⁾ 外平友佳理^{1,2)} 鈴木一由¹⁾ 佐藤綾乃¹⁾ 佐野忠士¹⁾ 土谷正和³⁾ 横田 博¹⁾
 浅川満彦¹⁾ (¹⁾酪農大獣医学 ²⁾到津の森動物公園 ³⁾Charles River Laboratories)